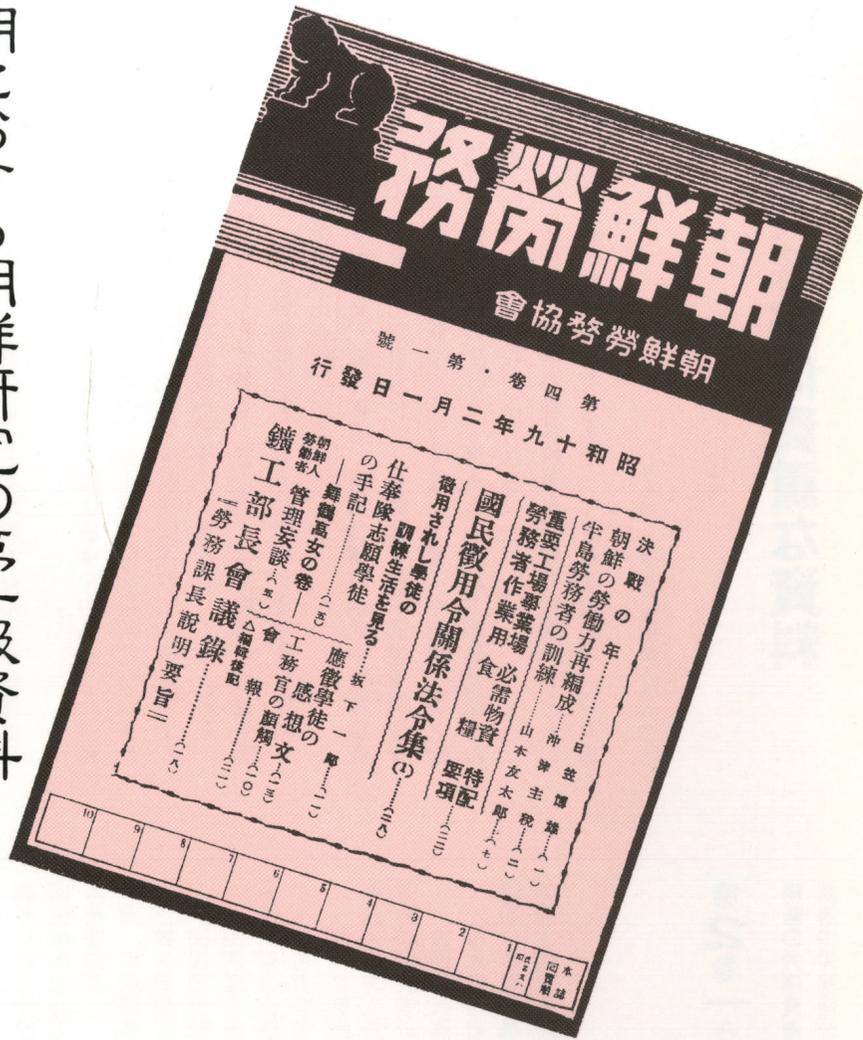


朝鮮労働務

戦時期における朝鮮研究の第一級資料



昭和16年、朝鮮總督府唯一の
 勞務対策協力団体として設立した
 「朝鮮労働協会」の幻の機関誌。
 当時の労働力動員政策全般を
 知る上で非常に貴重な資料、
 待望の復刻である。—— 緑蔭書房

復刻版

庵迄由香監修・解説

朝鮮労働協会発行

全4巻・別冊1

戦勝のための労務管理

元東京帝大教授 森 戸 辰 男

第一卷第五号(本書第二卷に収録)

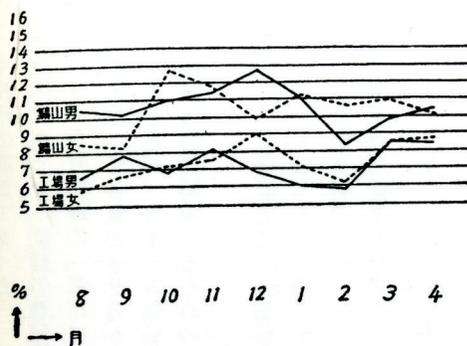
朝鮮の勞務者移動狀況

朝鮮總督府勞務課調査係

目次

- 一、工場鑛山勞務者の移動率
- イ 工場鑛山別移動率
- ロ 各業種別移動率
- ハ 職工鑛夫其他勞務者別移動率
- 二、工場鑛山勞務者の雇入及解雇數
- イ 工場鑛山別雇入及解雇數
- ロ 職工鑛夫其他勞務者別雇入及解雇數
- ハ 男女別勞務者雇入及解雇數
- 三、工場鑛山勞務者の移動の理由
- 四、工場鑛山勞務者の動續年數
- 五、運輸交通業勞務者の移動
- イ 運輸業
- ロ 交通業
- 六、土木建築勞務者の移動
- 七、結語

圖I 工場鑛山月別男女別移動率



一、工場鑛山勞務者の移動率

イ、工場鑛山別移動率

昭和十六年八月より同十七年四月に至る朝鮮の主要なる工場鑛山勞務者月別移動率(註1)を圖Iに示す。

圖Iに依るに傾向として

- 一、鑛山の男子勞務者の移動率中最も高きは十二月である。其の最も低きは二月である
- 二、工場の男女勞務者も概して右と同様の傾向を示してゐる。
- 三、鑛山の女子勞務者は右三者と甚だ異なる曲線を描いてゐる。

(鑛山女子勞務者の實數は鑛山男子工場男女子勞務者に比し、相對的には甚だ少數なることを附記する。)

總じて勞務者の移動率は年末に近づくに従つて上昇し十二月を頂點として急激に下降し二月に於て底をつき三月より再び上昇を始めること云ふことができる。

更に移動率を其の數値の點より見るに
一、鑛山の移動率は男女共工場の其を遙かに上廻り鑛山工場の移動率曲線が交叉するところはない。

二、鑛山男子勞務者の最高移動率は一二・七%(十二月)であつて其の最低移動率は八・四%(二月)である。

概して鑛山勞務者の移動率は十%の線を中心として其の上下にふれてゐると云ひ得る
三、工場勞務者の最高移動率は女子の九・一%(十二月)であつて最低は男子の五・八%

段と切實である。そこで國家は配置勞働力—勤勞國民の大多數は直接間接の配置勞働となるであらう—が經營において適正なる取扱ひ受けることにたいして當然責任を負ふこととならねばならず、そしてこの事態が勞務管理の公共性に向つてとは説明を要さないと思ふ。

動の發展である。劃期的な發展を遂げたころは、その綱領からも親へるやうに、として、また個々の勤勞者として、「皇運國産業ノ興隆ニ總力ヲ竭シ」
「國力ノ根ス」事であり、換言すれば國家的、公共運動要綱」は明確に「本運動は全産業人神を徹底すると共に、事業場單位の産業組織の活用によつて産業及び産業人に課を完うせんとする所にその本質を有す

監修者の言葉

庵途由香

『朝鮮労務』は、朝鮮労務協会の機関誌として一九四一年十月から一九四五年四月まで隔月刊行された雑誌である。(四四年は毎月発行)。本復刻は現在判明している二〇冊を収録し、利用の便宜を計るために別冊として解説、総目次、索引を加えた。

朝鮮労務協会は、朝鮮における労働力動員体制の整備を目的として一九四一年六月朝鮮総督府内に設置された、行政補助機関である。「朝鮮における唯一の労務対策協力団体」と自称してはいるが、実際は総督府の労務行政関連官吏が役員となり本協会を運営し、建設業や鉱業、工業などの主要産業の企業主を会員として、これらの体制内への包摂を図っている。

『朝鮮労務』はこのような企業主を主な対象として、関連法令を中心とした労務行政の宣伝、労務事情などに関する調査研究の普及および宣伝を目的に発行された。従って記事内容は、朝鮮内の労働状況の調査・分析や関連政策の解説が中心となっているが、扱われている項目は幅広い。「労務」の範囲も、工業・鉱業・土建業のみならず農業労働力まで対象としており、また例えば労働者の統制や訓練、そのための労働環境の状況、婦人労働力の利用や「勤労イデオロギー」にいたるまで、当時の労働政策全般がカバーされている。

刊行期間中に出された関連法令の全文、施行細則、提出書類の様式や複雑な戦時期の労働政策をわかりやすく解説した記事も多い。労働関連法令通牒や調査報告など、他の雑誌では見られない貴重な記事も少なくない。他にも労務行政と警察との密接な関わりや、当時の動員組織の根幹とも言える国民総力朝鮮連盟との関わりなど、諸外郭団体との関連も記事から読み取れる。

以上のように、『朝鮮労務』は朝鮮の労働力動員政策を網羅的に扱っているという点で、資料の少ない朝鮮の植民地末期研究にあたって貴重な資料の一つであるといえるであろう。

(あんどこゆか・津田塾大学大学院)

推薦の言葉

日帝末期の史実解明に貴重な資料

姜徳相

各巻の構成と主な内容

第1巻

A5判・402頁・4冊収録

- 国民皆労働に就て(上瀧基) (一巻一頁)
- 朝鮮労務協会の設立に際して(三橋孝一郎) (一巻二頁)
- 農村労務の問題(松本誠) (一巻三頁)
- 賃金統制令について(朝鮮総督府) (一巻四頁)
- 朝鮮の皆労働(宮孝一) (一巻五頁)
- 農村労力調整に関する一課題(中谷忠治) (一巻六頁)
- 昭和17年に於ける朝鮮土建界の展望(松平恒若) (一巻七頁)
- 国民徴用令(昭和14年7月8日) (一巻八頁)
- 労務座談会 (一巻九頁)

通牒 労務調整令ノ施行ニ関スル件 (一巻十頁)

国民勤労報国協力令(昭和16年11月22日)

国民勤労報国協力令施行規則(昭和16年12月1日)

労務調整令の施行に就て(別冊)

労務調整令(昭和16年12月8日)

労務調整令施行規則(昭和17年1月10日)

戦時下の婦人労働の実情(松沢兼人) (一巻十一頁)

労働動員実施計画に依る朝鮮人労働者の内地移入に就て(厚生局労務課) (一巻十二頁)

労働動員実施計画ニ依ル朝鮮人労働者ノ内地移入斡旋要綱

移入労働者訓練及取扱要綱

昭和17年春期農繁期労務調整に關して(石井辰美) (一巻十三頁)

朝鮮土建労務界の昨今 (一巻十四頁)

第2巻

A5判・426頁・5冊収録

朝鮮の労務資源に就て(田原実) (二巻一頁)

朝鮮の労務管理(宮孝一) (二巻二頁)

朝鮮に於ける労務管理の基本課題(竹田兼男) (二巻三頁)

釜山に於ける労務管理(北里忠雄) (二巻四頁)

世上史観論争がさわがしい。しかし、新たな問題提起をされる人はどれだけの史実を認識しているのだろうか。史実のつまみぐいがふくらんで既定化するのをおそれるのは私だけではない。

どのような史観にたとうと事実認識こそ歴史記述の基本であることにかわりはない。

植民地支配時、日本は日本の要求にそって朝鮮民族を適格に支配するため膨大な統治に有効な日本語資料を残した。近代朝鮮や日帝下朝鮮の研究に日本語文献は質的にも量的にも最大のものといえるし、その資料は各個の研究者や出版社の努力により復刊公開され事実認識の共有化に大きな成果をあげていることは周知のとおりである。しかし、なぜか日帝末期の資料はまだ不十分である。日帝末期の日本の最大関心事は朝鮮民衆の戦時動員であったことはいうまでもないが、今回、緑蔭書房から刊行される『朝鮮労務』はその空隙を埋めるものである。各巻の目次リストからはその執筆者即ち植民地権力者の一覽表、論文テーマ即ち専横な権力に泣く無権利な植民地民衆の構造がみえてくる。一冊や二冊なら古書展でたまにみかけることがあるが、まとめて架蔵している図書館、研究所などは聞いたことがない。稀覯本であることはまちがいない。朝鮮近代史、日朝関係史、日本史の研究に資すること大であることを信じて疑わない。推薦する次第である。

推薦の言葉

(かんごくさん・滋賀県立大学教授)

珍らしくかつ貴重な資料

宮田節子

恥ずかしい話だが、私が『朝鮮労務』の名を耳にしたのは、最近のことである。この時期の資料については、かなり注意して見ているつもりではいたのだが、持っている方の噂も耳にはしていたが、貸して頂くのものはばかられ、実際に『朝鮮労務』を手にとったことはない。

そんな私にとって、幻の雑誌『朝鮮労務』が復刻される事は、真に喜ばしい。

本誌の創刊は四一年一〇月。二カ月後には太平洋戦争に突入し、翌年五月には朝鮮における徴兵制の施行が閣議決定され、戦争遂行上朝鮮の占める位置は、いよいよ重要性を増して来た。それは大陸との橋頭堡としての朝鮮の地理的位置。原料・食糧供給地としての経済的役割等であるが、しかしその中でも「其ノ根幹ヲナスモノハ、豊富且増殖力大ナル人口」つまり朝鮮人自身であった。それをいか

- 国民登録職種解説(柳質郎) 二二二(二二六)(三一一)
青壮年国民登録解説(茶野繁雄) 二二四
朝鮮に於ける官伐事業労務者に就て(石田常英) 二二四
釜山に於ける女子の坑内就業に就て(佐藤漸) 二二四
朝鮮の労務者政策と土建界(渡辺勇) 二二四
産業報国運動とその実践(広崎真八郎) 二二五(二二六)
朝鮮の労務者移動状況(朝鮮総督府労務課) 二二五
朝鮮に於ける生産力拡充運動実施要綱 二二六
釜山山労務者の栄養献立(労働科学研究所) 二二六
労務管理の理論と其の実際(南岩男) 二二六(三一一)
戦勝のための労務管理(森戸辰男) 三一一
朝鮮人口・労働関係文献資料(桜井義之) 三一一

第3巻

B5判・316頁・4冊収録

- 労務管理の理論と其の実際(南岩男) 三一一(特輯号)
産業報国運動とその実践(広崎真八郎) 三一一(特輯号)
国民登録職種解説(柳質郎) 三一一・三二二
対内地求人取扱要領解説(村田幸達) 三二二・三三三
労務関係法令通牒 三二二・三三三
労務者移動の主なる原因とその防止策について 三二二・三三三(二二四)(三二六)
労務管理の基本課題(村田幸達) 三二四
遊休労力の動員過程(井上収) 三二四
朝鮮労働者管理妄談 三二四
朝鮮に於ける労務問題の特異性(黒松清) 三二六
朝鮮の地方性格(碓井隆次) 三二六
半島労務者の処遇に関する私見(平田重位) 三二六
朝鮮労務者錬成の方向(上田龍男) 三二六
労務関係法令通牒 三二六
賃金統制関係法令通牒集(朝鮮総督府) 三二六

第4巻

B5判・206頁・7冊収録

に有効かつ徹底的に活用するかは、日本にとって死活の問題であった。

その課題に因應するために、総督府司政局労務課内にあった「朝鮮労務協会」が発行したのが、「朝鮮労務」であった。この中には、当時朝鮮の「都市に目障りなウヨク」している遊休労働」をいかに「皇国勤労観」に目覚めさせるか。すでに労働している労働者をいかに有効に組織するか等を含め、日本への強制連行はもとより、国内動員をも含めた労働動員の実体を具体的に解明するための、かけがえのない資料である。

今までこの時期の研究に余り活用されてこなかった『朝鮮労務』が加わることによって、一層の研究の進展が期待される。若干の欠号はあるが、四五年四月号まで入っていて、私自身も一刻も早く手にとってみたい資料である。

また解説の庵途由香さんは、すでにこの時期のすぐれた論文を発表している気鋭の研究者で、その解説も楽しみである。

(みやたせつこ・早稲田大学講師)

—本誌に掲載された通牒・要綱・解説の主なもの—

- 賃金統制令改正勅令施行に関する件
- 賃金規則記載例に関する件
- 労務調整令の施行に関する件
- 労務調整令事務の取扱に関する件
- 労務調整令施行規則第12条の従業者名簿に関する件
- 労務動員実施計画に依る朝鮮人労働者の内地移入斡旋要綱
- 移入労働者訓練及取扱要綱
- 国民登録職種解説(「国民登録関係法令通牒」の解説)
- 全羅南道労務指導員訓練所規則
- 青壮年国民登録解説
- 改正対内朝鮮求人取扱要領解説
- 対内朝鮮求人取扱要領中改訂に関する件
- 勤労報国隊の出動に関する件
- 重要工場鉱山労働者の充足方法に関する件
- 労務調整令改正に伴う事務取り扱いに関する件
- 国民勤労報国協力令実施要綱制定に関する件
- 学徒勤労働員に関する件
- 国民勤労報国協力令第11条の総動員業務指定に関する件
- 重要工場事業場労働者食糧特配要綱
- 女子青年錬成指導員養成所設置要綱
- 日雇い労働者統制要綱

朝鮮人労働者管理妄談(四一〇)

半島労働者の訓練(山本友太郎)(四一一)

徴用されし学徒の訓練生活を見る(坂下一郎)(四一二)

仕奉隊員を志願した乙女達の手記(四一三)

国民徴用令関係法令集(四一四)

農業労働力に関する若干の考察(若田龍雄)(四一五)

月岳鉱山月剣寮生活の実況(利川英雄)(四一六)

朝鮮鉱業警察規則(改正)(四一七)

女子青年錬成指導員養成所設置要綱(四一八)

対内地求人取扱要領の改訂(四一九)

労務管理の諸問題(高見玄二郎)(四二〇)

国民徴用と労働動員(四二一)

国民徴用法令集(四二二)

朝鮮鉱夫労務扶助規則の改正(四二三)

敵国の労務状況(四二四)

工場環境衛生(木村正一)(四二五)

実践労務管理(別役雄久馬)(四二六)

座談 健康管理を語る(四二七)

労務管理の現状(高見玄一郎)(四二八)

朝鮮労務と慰問芸能(星野靖之助)(四二九)

現員徴用に接して(岸公平)(四三〇)

適性配置と作業素質検査実施要領(天野利武)(四三一)

対談 朝鮮の労務を語る(四三二)

国民勤労働員令(四三三)

国民勤労働員令施行規則(四三四)

別冊 A5判・40頁

解説(庵途由香)

総目次・執筆者索引

戦時下朝鮮の労働力動員政策の推進に
大きな役割を担った幻の機関誌！

復刻版

朝鮮労働

朝鮮労働協会発行

監修・解説

庵辻由香（津田塾大学大学院、朝鮮近現代史・国際関係学専攻）

収録内容

全20冊（昭和16年10月→20年4月刊）

別冊「解説・総目次・執筆者索引」

体裁

全4巻・別冊1

A5・B5判／上製クロス装／総1、480頁

揃定価「本体99,000円＋税」（分売不可）

ISBN4-89774-246-3

関連図書

戦時下朝鮮人中国人 連合軍俘虜強制連行資料集

石炭統制会極秘文書 強制連行による全国の主要炭鉱（樺太を含む）の詳細な労務統計と労務管理の実態を示す極秘内部資料を体系的に収録、編纂した。

■長澤秀編・解説 全4巻 本体80,000円

戦時下強制連行

極秘資料集「東日本篇」

石炭産業内部文書 労務管理・統制の実態と敗戦後の朝鮮人の動向、帰朝状況を当事者の綴る克明な記録、内部文書によって初めて明らかにする。

■長澤秀編・解説 全4巻 本体80,000円

増補新版 協和会関係資料集

戦時下、日本の国家・国民が在日朝鮮人に対して行なった皇民化政策の実態を明かす基礎史料を初めて集大成した。

■樋口雄一編・解説 全5巻 本体90,000円

緑蔭書房

〒173-0004 東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

〈書店名〉

00.3.4:60